

外部評価結果及び反映状況等について

課題名：新規就農者等の能力向上と経営発展段階にある農業者の経営向上に対する支援

○評価結果：A（良好）

【評価すべき点】

- ・成果目標は達成している。
- ・基礎セミナーとステップアップセミナーが連動し、中核的な農家の育成に繋がっている。
- ・チームとして活動を行うとともに、JA、市町村等とも連携が図られている。
- ・セミナー生をグループ化し、相互研鑽の場を設けている。

【改善すべき点】

- ・目標達成状況の算出根拠となる実数字を把握しておくこと。
- ・基礎セミナーに有機農業に関するメニュー（カリキュラム）を設けること。
- ・集合研修の実施にあたっては、参加率を上げるため、時期や内容等を十分検討し、開催すること。また、基礎セミナーは開催回数を増やすなど充実を図ること。

【その他（意見・要望等）】

- ・後継者と新規参入者の交流の場が設定されるとよい。
- ・活動結果、経営のステップアップの状況等を分析し、新規参入者向けの手引きなどが作成できるとよい。
- ・個別巡回指導においては、より質の高い助言指導を期待したい。

○評価に対する改善策等

【改善すべき点】

- ・目標達成状況の算出にあたっては、しっかりと根拠となる実数字を整理し、チーム内で確認、共有できるようにします。
- ・平成28年度の農業基礎セミナーで新規参入の有機農業者への視察研修会や緑肥作物に関する集合研修を実施しています。なお、有機農業者への指導については、農業基礎セミナーとは別に普及指導課題化して巡回指導等を行っています。
- ・集合研修の参加率向上については、農業基礎セミナー集合研修時のアンケートや巡回指導を通じて引き続き要望を聞きながら内容、時期及び開催回数を検討し、実施します。

【その他（意見・要望等）】

- ・農業後継者と新規参入者は、一緒に農業基礎セミナーを受講しており、既に交流する環境を整えています。
- ・参入の参考となる手引き作成のため、経営のステップアップの状況など普及活動で得られた情報を適宜農業アカデミーに提供していきます。
- ・個別巡回指導については、対象者に応じた指導をより一層心がけ、研究部門や革新支援専門員とも連携しながら高度な助言指導に努めます。

○次年度以降の普及指導計画への反映状況（又は反映予定）

担い手育成に関しては、平成 28 年度から新たな普及指導課題「農業の担い手育成」に取り組んでいますので、改善策を取り入れて今後の普及指導活動を進めていきます。

外部評価結果及び反映状況等について

課題名：施設キュウリ栽培における生産安定技術の普及

○評価結果：A（良好）

【評価すべき点】

- ・成果目標は達成している。
- ・難防除害虫対策として、様々な防除技術を検討している。
- ・活動成果を病害虫と土壌関係にて分野ごとに数値化して把握している。
- ・JAやJAの生産部会、種苗メーカーなどと連携して活動している。
- ・IPMマニュアルを作成し、講習会などで情報提供を行い技術の普及を図っている。また、これら活動は他の地域への波及効果が期待できる。

【改善すべき点】

- ・コストや労力的な面で天敵や赤色ネットなどのIPM技術が導入可能か、生産者が判断できる経営的な指標を示しながら活動すること。

【その他（意見・要望等）】

- ・巡回指導時は、次のほ場へ病害虫の持ち込みを防止する対策を行うとよい。
- ・IPMは高度な技術のため、情報提供をより詳しく行うことで波及効果が期待できる。
- ・キュウリ以外の作物についても、技術的な情報提供ができるとよい。

○評価に対する改善策等

【改善すべき点】について

- ・新技術の導入にあたっては、講習会等で生産者が経営判断できるよう防除効果に加え、導入コストや労力面等の情報提供を行っていきます。

【その他（意見・要望等）】について

- ・巡回検討等により病害虫を拡散させないように、普及指導員が巡回するときの順番の配慮や、靴底の泥等をよく落とす、靴カバーを着けるなどに留意するとともに、生産者組織にも啓発していきます。
- ・IPMについては、作成した天敵利用マニュアルを配布して啓発するとともに、民間企業と連携した巡回指導も併せ、効果の発揮に努めるなどより詳しく情報提供、指導を行います。
- ・施設の作付体系は、抑制キュウリー半促成キュウリ以外にも、抑制キュウリー半促成トマト等もあるため、地域の年間の作付体系や作型に応じた情報提供を心がけます。イチゴや露地ナスでも展示ほを設け、巡回や講習会を通じて情報提供を行っています。

○次年度以降の普及指導計画への反映状況（又は反映予定）

当該普及指導課題は平成27年度で終了しましたが、引き続き一般普及指導課題として新技術の導入を進めていますので、今後は改善策を取り入れて普及指導活動を取り組んでいきます。

外部評価結果及び反映状況等について

課題名：県育成野菜品種を活用した地域農産物の生産振興に対する支援

○評価結果：A（良好）

【評価すべき点】

- ・成果目標は概ね達成している。
- ・品目特性を踏まえた対象地域の絞り込みや、産地交付金を活用した活動の展開、販売促進や販売ルートの拡大など適切に行っている。
- ・効果的な活動体制を整え、J A、民間企業等と連携が図られている。

【改善すべき点】

- ・地域の特産物としての認知度が低いので、P R活動を積極的に行うこと。
- ・生産農家が少ないため、J A等と連携して情報発信などを行い、生産農家の増加を図ること。

【その他（意見・要望等）】

- ・適正な栽培時期だけでなく、時期を変えた栽培についても検討するとよい。
- ・特定の地域だけで栽培し、地域限定で購入できる農産物としてアピールしても良いのではないか。

○評価に対する改善策等

【改善すべき点】について

- ・品種の特徴を活かす調理法などを記載したリーフレットや品種名の入った出荷テープ等を生産者に配布し、消費者へのP R支援を行っています。今後も関係機関と連携したP R活動を行っていきます。
- ・J Aが開催する栽培講習会やJ A広報誌等を活用し情報発信を積極的に行うことで生産者の増加を図っていきます。

【その他（意見・要望等）】について

- ・栽培期間の拡大については、試験研究の成果を参考に展示ほを設置する等生産者の協力を得ながら検討します。
- ・「湘南ポモロン」と「湘白」は全県的に、「湘南一本」と「さがみグリーン」は地域を特定して進めており、地域特産品として取り入れたい意向のある市町村と連携を図っています。P Rに十分な生産量の確保に向けて生産農家を増やすため、関係機関と検討を進めています。

○次年度以降の普及指導計画への反映状況（又は反映予定）

当該普及指導課題は平成 28 年度で終了しますが、一般普及指導課題とするなど引き続き改善策について生産者やJ Aと連携しながら取り組んでいきます。

外部評価結果及び反映状況等について

課題名：J A津久井郡直売所発展に向けた農作物等安定生産技術の普及

○評価結果：B（概ね良好）

【評価すべき点】

- ・成果目標は概ね達成している。
- ・地域農業者に対する技術指導や情報提供により、出荷登録者の確保や品目数量の拡大に繋がっている。
- ・地域グループで普及活動を行うとともに、展示ほの設置やセミナーの開催などJ Aや市とも連携を図って活動している。

【改善すべき点】

- ・直売所開設により農家の経営的な変化や、地域農業への影響などの把握を行うこと。
- ・品目導入にあたっては、それらの加工レシピの提案や鳥獣被害対策も合わせて活動を実施すること。
- ・J Aと連携して消費者に対する情報発信を行い、直売所発展に向けた取り組みを行うこと。

【その他（意見・要望等）】

- ・直売所や地域の活性化のために津久井地域限定の特産物があるとよい。

○評価に対する改善策等

【改善すべき点】

- ・直売所開設後の出荷農家の販売金額増加など経営的な変化や、耕作放棄地の活用など地域農業へ与えた影響については、J Aなど関係機関から情報収集を行い、活動成果として把握し、今後の普及活動の改善等に活用します。
- ・新たな品目導入にあたっては、事前に鳥獣被害がある品目か確認し、必要な場合にはその対策と加工レシピの提案をJ Aと連携しながら取り組みます。
- ・これまで県育成品種ではリーフレットや品種名の入ったカッティングシート等を生産者に配布し、消費者に情報発信を行っています。今後もJ Aと連携して情報発信を行い、直売所発展に向けた取り組みを行います。

【その他（意見・要望等）】

- ・地域特産物については、津久井在来大豆のほか、株ネギなど地域資源の掘り起こしをJ Aなど関係機関と連携して行います。

○次年度以降の普及指導計画への反映状況（又は反映予定）

当該普及指導課題は平成27年度で終了しましたが、平成28年度から新たな普及指導課題「直売ニーズに対応した生産技術の普及」に取り組んでいますので、改善策を取り入れて今後の普及指導活動を進めていきます。